

六甲山自然案内人の会 平成 24 年 1 月度定例観察会報告書

実施日 : 平成24年1月8日 (日)

担当班 : 2班

コース : 摩耶山 (掬星台) ~アゴニー坂~杣谷峠~記念碑台

参加人数 : ビジター12名 会員28名 計40名

テーマ : 冬の植生観察のポイントを学ぶ

概要

六甲山全山分割縦走の7回目。今回のコースで必見すべきミズナラ・ヤマナラシ・シラキの群落を中心に、冬の植生観察を考察してみました。

解説事項

六甲山のカタカナ道

アゴニー坂 (Agony 苦痛)

サウスロード・ノースロード

カスケードバレー (杣谷) 段々の多い道 滝の多い道

アイスロード (前が辻道) 氷を運んだ道

シュラインロード (行者道) 祠のある道

ベルビューアリマロード (山頂付近) ベルゴート (ドーナツの道)

六甲山はグルームさんを初め、多くの外国人によってレクリエーションの場所として開発された。

中でもドーナツさんは、マウンテンゴートクラブを作り六甲山を登山の場として楽しんだ。

これらの事が、六甲山にカタカナ道が多い理由です。

アセビ

ツツジ科の常緑低木。

既に花穂を用意し4月ごろに開花。

殺虫剤としても使われたグラヤノトキシン類の毒性成分を持つ。

その毒を食草とするヒョウモンエダシャクという虫もいる。

万葉集にも10首アセビとして詠われ、鎌倉時代ではアセミと詠われる。

名のいわれは、ハゼミ (実がはぜる)、アシジヒ (足が痺れる)、アシミ (悪しき実) また方言も多い。



ヤマナラシ

ヤマナラシ属（Populus-楊）とヤナギ属（Salix-柳）との2属からなるヤナギ科の落葉高木。別名ハコヤナギ

葉は広卵または三角状卵形で、葉身に付く葉柄部が豎に平たくなっており、自在に風に揺れ音をたてることからその名がついた。

これらの属は鱗芽が、5~10有りヤナギ属は1枚である。

皮目は、円形または菱形で、材は柔らかく経木や箱物を作った。



ヤマナラシの葉

シラキ

トウダイグサ科シラキ属の小高木

六甲山では非常に珍しく群生している（アゴニー坂）

樹皮に疵をつけると白い乳液を出す（トウダイグサ科の特徴）

樹皮と材が白っぽいことが名の由来

独特の三角形の果実を現場で採取



シラキの群落

ミズナラ

ブナ科コナラ属の高木

葉の鋸歯は粗く鋭く、葉柄がほとんどない（現場の落ち葉で確認）

名前の由来は材に水分が多く燃えにくいことによる

ミズナラのドングリは1年で熟す。タンニンが強くリス等の動物は土に埋めてあく抜きをするという。



ミズナラの葉

アカガシ

ブナ科コナラ属の高木

葉は全縁で葉柄が長い（2~4 cm）

ドングリは熟するのに2年かかる。殻斗は横縞でピロード状の毛で覆われている。

名前の由来は材が赤いため



アカガシの葉

オオバヤシャブシ・ヤシャブシ・ヒメヤシャブシ

カバノキ科ハンノキ属

葉は互生で鋸歯あり

葉の大きさは オオバヤシャブシ > ヤシャブシ > ヒメヤシャブシ

側脈の数は オオバヤシャブシ < ヤシャブシ < ヒメヤシャブシ

果実は オオバヤシャブシ : 1個

ヤシャブシ : 1~2個

ヒメヤシャブシ : 数個（垂れ下がる）

花序の付き方 オオバヤシャブシ : 枝先から葉・雌花・雄花

ヤシャブシ : 枝先から雄花・雌花

ヒメヤシャブシ : //

根に根粒菌が共生。空気中の窒素を養分として取り込む能力がある（窒素固定）
やせ地でも育ち、土壌を豊かにする効果がある。
果穂はタンニンが多く、染物に利用される。



オオバヤシャブシ



ヒメヤシャブシ

当日は、ベテラン会員の協力を得、3班に分けて
観察会を実施しました。
講師の皆様、ありがとうございました。



こんなものも見つけました。
ウスタビガの繭



後記

所々に雪が残り、穂高湖には氷が張る寒い中、予想外に大勢の参加者があり楽しく定例会を実施できました。
講師役を務めていただいたベテラン会員はじめ、皆様のご協力に感謝申し上げます。

